

2019（令和1）年度 事業報告

I 特筆事項

少子高齢化を背景とした「財源逼迫」「人手不足」という従来の2大問題に加え、2019年4月から施行された働き方改革関連法への対応や介護職員等特定処遇改善加算など新加算の手続き等、零細企業であるともの家にとって、多忙を極めた1年であったが、事務長をはじめ本部事務職員の努力のおかげで、何とか乗り越えることができた。また、9月には小規模多機能ホームともの家と小規模多機能ともの家吾も紅の3年ぶりとなる実地指導が行われ、松山市から貴重なご指導をいただいた。よりよいサービスを心がけ、職員一同頑張っているが、まだ改善の余地があると気づかされたよい機会であった。

年が明け、どうにか1年を乗り切れるかと思っていた矢先に、新型コロナウイルスの猛威が世界を襲った。県内でも少しずつ感染者が見つかるようになり、新年度になっても明るい兆しは見えず、4月には、松山市内のサービス付高齢者向け住宅でクラスターが発生した。そこでは、介護にあっていた職員の全員が濃厚接触者として自宅待機指示が出され、代替職員の確保は困難を極めたという。利用者へのサービスは停滞し、その後も中傷被害に悩まされるなど、新型コロナウイルスが介護事業者と利用者にもたらすダメージの大きさや対応の難しさが浮き彫りになる出来事だった。また、緊急事態宣言以降、感染拡大予防の観点から、サービスの縮小や休止を決めた事業者もあり、新型コロナウイルスが利用者にもたらす影響は計り知れないものとなった。

ともの家も、お花見の縮小や合同バーベキューの中止、外出活動の自粛など、例年行事や普段の活動に影響が出ている。高齢者にとっては、一日一日が貴重な時間であるにも関わらず、様々な場面で自粛を余儀なくされることに、もどかしさを感じている。影響は職員にも及んでおり、学校の休校措置に伴い、仕事を休まざるを得ない職員も出てきている。国は、人員基準等の臨時的な取扱いで、一時的に人員基準を満たせないことを認めているが、結局は利用者へのサービスに影響が出てしまう。新型コロナウイルスの問題は介護事業者だけに限ったことではないが、感染すると重症化するリスクが高く、かつクラスターが発生しやすいという点から、感染拡大予防に関する様々な対応が、業界にとって今後しばらくの大きな課題となるであろう。

冒頭に述べた「財源逼迫」「人手不足」という慢性的な2大問題に、「新型コロナウイルス対策」という新たな問題が加わったことで、非常に厳しい時代の到来を予感させる2019年度であった。

以下に、2019(令和1)年度の事業概要を報告する。

II 経営状況

社会福祉事業会計

- 1) 溝辺ともの家、アンジュールともの家、ともの家この道のグループホーム3事業所と、小規模多機能ホームともの家、小規模多機能ともの家吾も紅の小規模多機能居宅介護2事業所と法人本部の当年度の事業活動の会計は表1-①のとおりである。前期比で見ると増収減益である。

表1-① 事業活動の経常増減差額と前年度対比(単位:千円)

科目	2017年度	2018年度	2019年度	前期比
サービス活動収益	205,098	215,742	221,453	5,711
サービス活動費用	190,745	199,664	217,848	18,184
サービス活動外収益	4,278	4,157	5,225	1,068
サービス活動外費用	685	595	2,561	1,966
経常増減差額	17,946	19,640	6,269	△ 13,371

- 2) 資金収支は表1-②のとおりとなった。収入は約2億2761万円で、支出は約2億1711万円で、当期資金収支差額は約1050万円で、次期繰越金(家計の貯蓄に相当)にあたる当期末残高は約1億4412万円である。

表1-② 資金収支表(単位:千円)

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計	当期資金収支差額
226,679	0	930	227,609	10,497
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計	当期末支払資金残高
201,461	6,726	8,925	217,112	144,118

3) 収入の状況

- ① 社会福祉事業の事業活動収益を部門別に分析すると、サービス活動(介護保険事業)収益は、前年度よりも571万円の増収であった。ほとんどのサービス区分で減収となったが、吾も紅の増収が大きかった(表2-①)。

表2-① サービス活動収益の事業所別内訳(単位:千円)

事業所	2017年度	2018年度	2019年度	前期比
本部	479	1,020	600	△ 420
溝辺ともの家	27,985	28,732	28,906	174
ともの家この道	40,205	42,986	42,582	△ 404
アンジュールともの家	40,786	41,914	41,882	△ 32
小規模多機能ホーム	51,181	54,877	54,836	△ 41
ともの家吾も紅	44,461	46,212	52,648	6,436
計	205,098	215,741	221,453	5,712

表2-② サービス活動収入の構成比率

- ② サービス活動収入の構成比率は表2-②のとおりである。

介護保険収入	利用料収入	寄付金
77.3	22.4	0.3

- ③ サービス活動における経営指数値は、表2-③のとおりである。人件費率の増加に伴い、収益性は1.6%となっており、前期より大幅に減少した。

表2-③ 経営指数値

経費率				収益性
人件費率	事務費	事業費	減価償却費	
75.5	6.4	11.7	5.6	1.6

人件費について

事業活動収入に対する人件費比率は75.5%。「職員の直接労働によって得た収入に対する賃金の還元率」は97.7%(人件費÷介護保険収入)である。この数年来の人件費の内訳は表2-④のようになっている。前年度よりも約1890万円の増加となった。賃金の増額に加え、引当金の計上が大きなき要因である。

表2-④ 直近3年間の人件費内訳(単位:千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	前期比
役員報酬	998	1,588	1,599	11
職員俸給	69,717	69,442	68,971	△ 471
職員諸手当	40,666	43,993	46,906	2,913
非常勤職員賃金	16,228	16,239	21,933	5,694
退職給与引当金繰入	0	882	3,250	2,368
法定福利費	15,987	17,102	19,311	2,209
賞与引当金繰入	0	0	5,297	5,297
計	143,594	148,366	167,267	18,901

注1:職員諸手当には賞与・退職給付金を含んでいる

事業費・事務費について

事業費は減少、事務費は増加となった(表2-⑤)。事務費増加の大きな要因は、アンジュールともの家の外壁塗装にかかった修繕費である。前期比で約400万円の増加であった。事業費については無駄の削減に努めた結果、約270万円の減少となった。

表2-⑤ 直近3年間の事業費・事務費推移(単位:千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	前期比
事業費	26,755	28,667	25,940	△ 2,727
事務費	7,909	10,759	14,237	3,478

公益事業会計

表3-① 事業活動の経常増減差額と前年度対比(単位:千円)

- 1) シニア住宅パレット(10室)と高齢者住宅(4室)、第2ともの家(5室)の公益事業会計は、表3-①のとおりとなった。前期対比では増収増益であり、今期の経常増減差額は、約162万円であった。

科目	2017年度	2018年度	2019年度	前期比
サービス活動収益	16,905	16,504	17,567	1,063
サービス活動費用	21,165	16,331	15,124	△ 1,207
サービス活動外収益	1,168	1	18	17
サービス活動外費用	979	908	839	△ 69
経常増減差額	△ 4,070	△ 734	1,621	2,355

- 2) 資金収支は表3-②のとおりとなった。収入は約2668万円で、支出は約1839万円で、当期資金収支差額は約829万円。次期繰越金にあたる当期末残高は約942万円であった。

表3-② 資金収支表(単位:千円)

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計	当期資金収支差額
17,585	0	9,098	26,683	8,292
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計	当期末支払資金残高
12,234	5,566	591	18,391	9,422

収益事業会計

表4-① 事業活動の経常増減差額と前年度対比(単位:千円)

- 1) 太陽光発電事業の事業会計は表4-①のとおりであった。サービス活動収益(売電事業収益)は減少したが、費用も減少した結果、前期対比で増益となった。

科目	2017年度	2018年度	2019年度	前期比
サービス活動収益	15,631	15,701	15,570	△ 131
サービス活動費用	5,275	5,115	4,877	△ 238
サービス活動外収益	9	2	2	0
サービス活動外費用	1,275	1,164	1,055	△ 109
経常増減差額	9,089	9,423	9,639	216

- 2) 資金収支は表4-②のとおりとなった。収入は約1626万円で、支出は約1510万円で、当期資金収支差額は約115万円で、次期繰越金にあたる当期末残高は約420万円であった。

表4-② 資金収支表(単位:千円)

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計	当期資金収支差額
15,572	0	690	16,262	1,156
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計	当期末支払資金残高
5,831	8,585	690	15,106	4,203

法人全体

法人全体の事業会計は、表5-①のとおりとなった。全体で増収減益となった。資金収支は表5-②のとおりで、当期資金収支差額は約1995万円で、当期末資金収支残高は約1億5774万円となった。

表5-① 事業活動の経常増減差額と前年度対比(単位:千円)

科目	2017年度	2018年度	2019年度	前期比
サービス活動収益	237,634	247,946	254,590	6,644
サービス活動費用	217,185	221,110	237,849	16,739
サービス活動外収益	5,455	4,159	5,245	1,086
サービス活動外費用	2,939	2,667	4,455	1,788
経常増減差額	22,965	28,328	17,530	△ 10,798
当期活動増減差額	22,423	28,626	17,365	△ 11,261

表5-② 資金収支表(単位:千円)

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計	当期資金収支差額
259,836	0	1,385	261,221	19,947
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計	当期末支払資金残高
219,526	20,876	872	241,274	157,742

Ⅲ 職員状況

1) 法人全体の年度末職員数と常勤換算数は、表6-①のとおりとなっている。

表6-① 年度末職員数と常勤換算数

	事務員	看護師	介護職員	調理員	その他職員	計
常勤	2	2	30	1	0	35
非常勤	2	1	11	2	3	19
常勤換算数	3.2	2.3	35.3	1.5	1.2	43.5

以下、2019(平成31)年3月末時点での非常勤を含む職員54名の状況を報告する。

2) 勤続年数

職員の勤続年数と離職率は、表6-②のようになっている。5年以上の勤務経験者が50.0%となっている。10年以上の職員も20.4%となり、5人に1人は10年以上の職員となった。職員の定着を掲げた様々な取組の成果だと言える。

離職率

2018年度に引き続き、職員定着に注力したが、正規職員で2名、非正規職員で1名の離職となり、離職率は表6-②のとおりとなった。全国的平均と比較しても低い水準である。

表6-② 職員勤続年数と離職率

勤続年数	人数	構成割合	構成割合	
		2019年度	2018年度	
～1年	7	13.0%	13.7%	
1～3年	9	16.7%	19.6%	
3～5年	11	20.3%	25.5%	
5～8年	12	22.2%	13.7%	
8～10年	4	7.4%	11.8%	
10年～	11	20.4%	15.7%	
離職率	正規/非正規		2019年度	2018年度
	正規職員		6.1%	6.4%
	非正規職員		10.0%	13.0%
	2018年度全国(介護労働安定センター調査) 正規職員(非正規職員)は、14.3%(19.3%)			

有資格状況

介護職41名の有資格状況は、表6-③のとおりとなっている。介護労働安定センターの「平成30年度介護労働実態調査結果」による全国平均と比べると、当法人は有資格者が多いといえよう。

表6-③ 介護労働に従事する者の保有資格状況

資格	ともの家		全国
	2019年度	2018年度	2018年度
介護福祉士	73.1%	70.5%	40.3%
介護支援専門員	17.0%	18.2%	8.7%

資格取得等の貸付金の利用状況

2016年度から開始した「資格取得又は更新時の費用貸付制度」の利用は、表6-④のようになった。職員のキャリアアップのために、今後も活用を奨励していく。

表6-④ 資格取得等の貸付金の利用状況

資格	取得 (人)	更新 (人)	費用 (円)
介護福祉士	0		0
介護支援専門員	1	0	60,000

給与等

当法人の介護職員(正規職員)の平均月収は、表6-⑤のとおりとなった。参考値として、2018年度介護労働安定センターのデータや日経ヘルスケア(2020年5月号)掲載の全国および四国地方の賃金データを載せている。今後も加算の活用等をおこない処遇改善に力を入れていく。

表6-⑤ 2019(令和1)年度平均賃金(介護職員)

	ともの家	全国平均※1	四国平均※2	全国平均※2
月給	216,222	214,721	184,897	206,115
賞与	614,701	559,569		

※1.全国介護労働安定センター調査結果より平成30年9月時点データ。

※2.日経ヘルスケア(2020年5月号)賃金速報より2020年3月時点データ。

※2.基本給と定期的に支払われる手当類などを合計したもの。

IV 各事業所利用状況(2020年3月31日時点)

1) グループホーム利用状況

今年度の利用状況は、表7-①のようになった。死亡や入院等により、全事業所で年間入居率が減少した。

表7-① グループホーム利用状況

	延べ利用者数		1日当り利用者数		年間入居率		
	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度	2019年度	2018年度	前期比
溝辺	2,171	2,172	5.93	5.95	98.9	99.2	△ 0.3
この道	3,208	3,285	8.76	9.00	97.3	100.0	△ 2.7
アンジュール	3,135	3,203	8.59	8.77	95.2	97.5	△ 2.3
計 (入居率は平均)	8,514	8,660	23.3	23.7	97.1	98.9	△ 1.8

2) グループホーム入居者状況

入居者状況は表7-②のようになった。ここ数年、徐々に要介護度が高くなってきている。長く生きれば介護度が上がっていくのは当たり前のことだが、身体介助の比重が高くなっているため、腰痛予防やノーリフティンなどへの対応も必要である。

表7-② グループホーム入居者状況(2019年3月31日現在)

	平均年齢	平均要介護度
溝辺	91.8	4.2
この道	86.0	4.1
アンジュール	87.0	3.8
平均	88.3	4.0

3) 小規模多機能利用状況

利用状況と登録率は、表7-③のようになった。今後、社会福祉事業の収益拡大および地域包括ケアシステムのいっそうの推進のためにも、小規模多機能部門の利用者増加は必須である。グループホームや高齢者住宅等との連携を深めるとともに、医療機関や他法人、地域包括支援センター等との連携を進めていく。

表7-③ 小規模多機能利用状況

	通い延人数	宿泊延人数	訪問延人数	登録率	
	2019年度(前年度)	2019年度(前年度)	2019年度(前年度)	2019年度	2018年度
小規模多機能ホーム	4,226(4,563)	2,575(2,478)	3,861(4,956)	64.0%	68.7%
ともの家吾も紅	3,756(3,336)	2,233(2,127)	8,822(7,582)	83.3%	80.6%

4) 小規模多機能利用者状況

利用者状況は表7-④のようになった。利用者の平均介護度は2.1とそれほど高くはないが、認知症のため在宅介護が困難な利用者や医療対応が必要な利用者も少なくなく、それらの対応に試行錯誤した1年であった。

表7-④ 小規模多機能利用者者状況(2019年3月31日現在)

	平均年齢	平均要介護度
小規模多機能ホーム	86.0	2.0
ともの家吾も紅	85.8	2.2
平均	85.9	2.1

5) その他の事業所(公益事業)の利用状況

入居率は表7-⑤のとおりとなった。入居ニーズの高まりを受け、第二ともの家は定員を4名から5名に増やしたため前期比で入居率が減少した。住宅確保要配慮者居住支援など、今後は対象を拡大した住宅事業の展開およびそれに付加するサービスについても考えていく必要がある。

表7-⑤ 公益事業入居状況

	入居率		
	2019年度	2018年度	前期比
シニア住宅パレット	90.0%	89.5%	0.5%
高齢者住宅	100.0%	87.7%	12.3%
第二ともの家	83.6%	100.0%	-16.4%

アンジュールともの家

1) 総括

① 利用者の思いや希望を大切にし、心地よい暮らしを提供する

昨年度の事例発表のテーマとして、ユマニチュードについて理解を深めたにもかかわらず、身につける職員、ついていない職員との差を大きく感じた。また、外部評価があったことで、利用者のフェイスシート、アセスメントシートを改めて作成したことで、日頃の生活の参考になった。今後も、利用者に向き合う中で新たに発見したことなど職員間で情報共有しながら、心地よい暮らしが提供できるよう努めていきたい。

② チームケアを意識し、質の向上に努める

職員間の報告、連絡、相談、確認を行っていたにもかかわらず、忘れていた職員がいることに驚いた。今後は確認行為を増やし、質の向上に努めていきたい。利用者の生活は線で繋がっており、職員は点で入っているからこそ、職員同士の意思疎通やコミュニケーションが、利用者の生活を支える上で重要であることをさらに意識していきたい。

③ ケアパートナーとして家族との信頼関係を大切にす

来訪が多いご家族や外出への参加、月1回外泊される方など関わり方は様々。遠方の家族が多くなり、以前よりもコミュニケーションを取ることが難しくなりましたが、今後も継続してご家族とも、報告、連絡、相談を行い情報共有に努め、信頼関係を築いていきたい。

2) 具体活動報告

防災訓練

①6月30日:夜間に巨大地震が起ったと想定。揺れが収まった後、台所より出火し、初期消火を行うが鎮火せず、通報・避難誘導を行う。以上を想定し、地震による家具の転倒被害等を防ぐため、施設内及び外周における危険箇所を探し、それに応じた対策を各事業所で検討した。

②1月27日:この道、小規模と合同で開催

早朝の出火を想定。この道の夜勤者が台所で朝食準備中、鍋を火にかけている最中に利用者に呼ばれ、訪室している際に出火した。初期消火、トランシーバーで通報と応援要請を行った。入居者を北側勝手口へ避難誘導した。その後、東消防署員より指導を受けるとともに、消火器の使用訓練を受けた。

③今後の防災訓練について…夜勤帯、溝辺から出火した場合、夜勤者は自事業所を離れる場合どうするのか、巨大地震発生の場合、他事業所への応援ができない時の避難方法等、たくさんの災害を想定した訓練が必要だと思う。

外出、行事への取組			
4月	買い物、外食、事例発表会	11月	紙芝居ボランティア、海鮮ちらし作り
5月	買い物、外食、合同パーベキュー、地区防災訓練		クリスマスツリー作成
6月	買い物、絵本読み聞かせボランティア、ぎょうざ作り	12月	クリスマス飾り作り、干し柿づくり、バザー、大掃除
7月	紙芝居ボランティア、湯山中学生交流会 お好み焼き作り、買い物		ピアノコンサート、クリスマス会、チェロ演奏会、餅つき
8月	ピアノコンサート、そうめん流し、スイカ割り	1月	初詣(隻手薬師)、焼き芋づくり、書初め、防災訓練
9月	敬老会、芋炊き	2月	節分(豆まき)、ちらし寿司作り、焼き芋作り、外食
10月	地域の獅子舞見物、見奈良のコスモス畑遠足、 タペストリー作成、鮭寿司作り、運動会	3月	ちらし寿司作り、おやつ作り(白玉ぜんざい)、カラオケ
		その他、毎週木曜日はクラブ活動として、カラオケ、体操、ゲーム、ピアノコンサート等をおこなった。	

2019年度に行った新規取り組み内容

- ・入居者の食事の形態の見直し。
- ・看取り体制の多様化。
- ・ホーム内の整理整頓を行うとともに、リビングのレイアウト変更。

3) 介護事故

年間発生件数	10件	松山市への報告	0件				
内容別 件数							
骨折	転倒	転落	打撲・切り傷	誤薬	薬飲み忘れ	表皮剥離	ずり落ち
0	1	0	2	3	2	0	2
主な事故の改善措置	<p>○転倒は、夜間センサーマットを使用していたにもかかわらず、電源を入れ忘れたため起き上がってきたことに気が付かず転倒してしまった。改善策としては、退室前にセンサーが鳴るか確認するようにしている。</p> <p>○椅子からのずり落ちは、椅子へ移乗介護した際、ポジショニングが不十分で、椅子前方に座らせたこと、また職員二人が台所作業を行っていた為、フロアの見守りが出来ておらず姿勢が崩れていたことに気が付かなかったため起きてしまった。改善策としては、深く座れる椅子に変更し、移乗後必ずポジショニングを確認するようにしている。</p> <p>○薬に関する事故は100%職員による事故であり、職員の心構えで100%防げる事故である。その都度、職員には緊張感を持って扱うよう指示している。</p>						
ヒヤリハット	36件	昨年度より20件減。しかし、事故件数が増えている。事故を防ぐためのヒヤリハットであり、ただ記入したらよいという考えを捨て、事故防止に努めていきたい。					

ともの家この道

1) 総括

①ひとりひとりの思いを大切にし優しい介護をする

言葉遣いが荒い、早口、感謝の気持ちを伝えきれていない等の反省が上がった。職員が意識しないと変わらないため、入居者の思いや気持ちを大切にしながら、それを言葉や態度で示せるよう努めていきたい。

②職員の質の向上を目指す

「報告・連絡・相談」について、確認不足の時がある、もっと確実にしないといけない、分からないことは他の人に聞く等の反省が上がった。交代勤務であるため、申し送りは業務日誌や連絡ノート等を活用している。それでも、忘れてしまうことがあるため、一人ひとりが自覚と責任を持つとともに、日頃から職員同士でコミュニケーションを取ることも大事である。何事も一人で判断せずに、まず相談し、連絡、報告、最後に確認することを確実に行っていきたい。また、今年度は入居者の手足に、内出血が多く見られた。すべてが介護中に出来たものとは言えないが、介護を丁寧に行うことを忘れず、入居者が安心して介護が受けられるよう徹底していきたい。

③居住空間を整備する

今年度は、特にリビング及び台所の模様替えと整理整頓を行った。まだ、整理できていない所があるため、引き続き行っていきたい。また、居室については、定期的に掃除が出来るよう努めていきたい。

2) 具体活動報告

防災訓練

①6月30日：夜間に巨大地震が起こったと想定。揺れが収まった後、台所より出火し、初期消火を行うが鎮火せず、通報・避難誘導を行う。以上を想定し、地震による家具の転倒被害等を防ぐため、施設内及び外周における危険個所を探し、それに応じた対策を各事業所で検討した。

②1月27日：アンジュール、小規模と合同で開催

早朝の出火を想定。この道の夜勤者が台所で朝食準備中、鍋を火にかけている最中に利用者に呼ばれ、訪室している際に出火した。初期消火、トランシーバーで通報と応援要請を行った。入居者を北側勝手口へ避難誘導した。その後、東消防署員より指導を受けるとともに、消火器の使用訓練を受けた。

③今後の防災訓練について…夜勤帯、溝辺から出火した場合、夜勤者は自事業所を離れる場合どうするのか、巨大地震発生の場合、他事業所への応援ができない時の避難方法等、たくさんの災害を想定した訓練が必要だと思う。

外出、行事への取組	
4月	花見(八白公園)、事例発表会
5月	合同バーベキュー
6月	焼きそば作り、職員研修会、防災訓練
7月	湯山中学校交流会、紙芝居ボランティア
8月	そうめん流し
9月	買い物(おいでな菜)、敬老会、外食(回転寿司)
10月	獅子舞見物、室内運動会、見奈良のコスモス畑遠足
11月	外食
12月	紙芝居ボランティア、バザー、外食、大掃除、クリスマスピアノコンサート、チェロ演奏会、餅つき
1月	初詣(隻手薬師)、外食、防災訓練
2月	節分(豆まき)、外食

2019年度に行った新規取り組み内容

- ・リビングのレイアウト変更
- ・毎月1回昼食時に、パンバイキングの実施
- ・毎月最低1回は、外出及び外食の計画及び実施
- ・グループホーム3事業所で、記録の様式を統一

3) 介護事故

年間発生件数	18件	松山市への報告	1件	誤嚥			
内容別	件数						
骨折	転倒	転落	打撲・切り傷	誤薬	薬飲み忘れ	表皮剥離	誤嚥
0	5	5	0	0	2	5	1
主な事故の改善措置	<p>○誤嚥事故に関しては、自力摂取が可能な方で普段から食べやすい大きさにカットして提供していた。その中で、誤嚥を起こしてしまったため、その日の献立や、食事の様子にも注意しながら対応している。</p> <p>○転落については、ヒヤリハットを活用し、使用ベッドの交換、センサーマットの使用などの検討を、早急に行う必要があったと反省している。</p> <p>○転倒、転落に並んで多い事故が表皮剥離であった。入居者が自ら手を動かしてできた傷もあるが、職員が介護を行った後に怪我を発見するケースも多かった。職員は、自らの介護を振り返るとともに、介護を行う際は慎重にかつ、丁寧に行うことを肝に銘じなければならない。</p>						
ヒヤリハット	47件	<p>全体の4割が薬に関するケースだった。薬を扱う場合は、準備の時から服用するまで、慎重かつ確実に行うことが求められる。そのため、一人ひとりが緊張感を持って、落ち着いて対応しなければならない。</p>					

溝辺ともの家

1) 総括

①重度化する中、その方のニーズが何かを考え、寄り添い、笑顔を引き出す。

寄り添い、笑顔を引き出す言葉かけや関わりは出来たと思うが、重度化していく中で介護に追われて関わる時間が少なかったように思う。今後は、時間を上手く作り、どう関わっていくかが課題である。

②利用者、職員にとって、安心、安全、安楽な介護を学び、実践する。

介護の量も増え、職員にとっても負担が大きくなる中で、いかに利用者の立場に立った介護ができるかが求められると思う。職員同士での言葉かけや、連携などは出来ていたと思うので、今後も職員全員で話し合っていきたい。

2) 具体活動報告

防災訓練

①6月28日：夜間に巨大地震が起こったと想定。揺れが収まった後、台所より出火し、初期消火を行うが鎮火せず、通報・避難誘導を行う。以上を想定し、地震による家具の転倒被害等を防ぐため、施設内及び外周における危険個所を探し、それに応じた対策を各事業所で検討した。

②2月28日：夜間、台所からの出火。初期消火を行うが鎮火せず、他事業所に応援要請を行いながら避難開始を想定した訓練。火災発見から、通報、初期消火、応援要請、避難までの流れを迅速に行うようにすることを目標に、消防署員立会いのもと、訓練をおこなった。その後、水消火器を使った消火訓練をおこなった。

○日勤帯での役割分担などは、回数を重ねて身に付ける必要がある

外出、行事への取組	
4月	お花見、事例発表会
5月	なないろカフェ外食
6月	バーベキュー、職員研修会、防災訓練
7月	湯山中学校交流会
8月	そうめん流し
9月	敬老会
年間	天気の良い日には、散歩やウッドデッキでの外気浴を積極的におこなった
上記以外にも、毎週木曜日はクラブ活動として、カラオケ、体操、ゲーム、ピアノコンサート等をおこなった。	

2019年度に行った新規取り組み内容

・リビングの整理、レイアウト変更

定員6名の小規模グループホームのため、他の事業所に比べリビングが狭い。そのため、これまで以上にゆったり寛げ動線も十分確保できるよう、家具の整理とレイアウト変更をおこなった。

・事故防止の徹底対応

重度の利用者が多く、身体介助の割合が高くなる分、事故防止に努めた。移乗マシン等は、導入を考えデモ機を使用してみたが、有効だと思えるものがなく断念した。職員による身体介助頼みになる分、ヒヤリハットを活用し、事故を未然に防げるよう努めた。結果として事故件数が激減した。

・グループホーム3事業所で、記録の様式を統一

3) 介護事故

年間発生件数	2件	松山市への報告	0件				
内容別 件数							
骨折	転倒	転落	打撲・擦り傷	薬飲み忘れ	ずり落ち	火傷	その他
0	0	0	1	1	0	0	0
主な事故の改善措置	○トイレの立位時に利用者が動き、慌てて車椅子に座ってもらおうとした際、フットレストに足が当たり擦り傷になった。無理な介護はせず、2人介助や2段階に分けて介護をする事で防げる事故だった。 ○薬に関しては、職員の確認不足によるもので、複数の目で確認するように指導した。						
ヒヤリハット	36件	昨年より2件増加。重度の方が多いため、その分事故のダメージは大きくなる。ヒヤリハットの活用で事故防止に努めたい。					

小規模多機能ホームともの家

1) 総括

①利用者一人一人が日々の機能向上と共に楽しく日常が過ごせるよう、また一日でも長く在宅生活が送れるよう支援する。

ほぼ毎日、体操レクを行うことで体を動かし、身体能力の維持に努めた。また、できる方にはできる限りの家事の手伝いを行って頂いた。

②清潔な環境づくりに努め、利用者の健康管理を行う。職員が感染源、媒介者にならない。

看護師を中心に利用者の体調管理を行い、体調の悪い方や感染症の疑いのある方はその都度、対応できた。また、体調の悪い職員に対して、状態を見て休むなど対応できた。

③チームワークを大切に、報告・連絡・相談を徹底する。

申し送りや、連絡ノートを活用し、細かなことでも情報を共有するように努めた。また、問題や相談事項がある場合は、その都度、皆で共有しより良い意見を出し合うことができた。

2) 具体活動報告

防災訓練

①6月30日：夜間に巨大地震が起こったと想定。揺れが収まった後、台所より出火し、初期消火を行うが鎮火せず、通報・避難誘導を行う。以上を想定し、地震による家具の転倒被害等を防ぐため、施設内及び外周における危険個所を探し、それに応じた対策を各事業所で検討した。

②1月27日：アンジュール、この道と合同で開催

早朝の出火を想定。この道の夜勤者が台所で朝食準備中、鍋を火にかけている最中に利用者と呼ばれ、訪室している際に出火した。初期消火、トランシーバーで通報と応援要請を行った。入居者を北側勝手口へ避難誘導した。その後、東消防署員より指導を受けるとともに、消火器の使用訓練を受けた。

③今後の防災訓練について…夜勤帯、溝辺から出火した場合、夜勤者は自事業所を離れる場合どうするのか、巨大地震発生の場合、他事業所への応援ができない時の避難方法等、たくさんの災害を想定した訓練が必要だと思う。

外出、行事への取組			
4月	いちご狩り、事例発表会	10月	見奈良コスモス畑遠足、地域の獅子舞見物
5月	合同バーベキュー	12月	バザー、大掃除、クリスマスピアノコンサート、チェロ演奏会、餅つき
6月	お好み焼きづくり、職員研修会、防災訓練		
7月	湯山中学校交流会	1月	初詣、防災訓練
9月	食事会、敬老会	2月	七折梅まつり見物
その他	毎週クラブ活動として、カラオケ、体操、ゲーム、ピアノコンサート等をおこなった。		

2019年度に行った新規取組み内容

- ・外出行事に力を入れようと多くの計画を立てたが、天候に恵まれない事が多く、計画の半分は実行できずに終わってしまった。次年度の課題として、計画を予備日まで考え、柔軟に対応したい。
- ・職員の得意分野を生かすよう、入浴やレクを行う職員を固定するのではなく、まんべんなく各職員が行うように分担した。
- ・各居室のベッドを、介護用に変更した。(まだ全て変更できていない)
- ・観賞用にリビングのテレビを大型の物に変更した。

3) 介護事故

年間発生件数	25件	松山市への報告	1件	骨折			
内容別 件数							
骨折	転倒	転落	異食	喉詰め	誤薬	失踪	ずり落ち
1	5	0	2	2	10	1	4
主な事故の改善措置	薬関係の事故が目立った。服薬前の確認はもちろん、配薬時の再確認や夜間帯での確認、早出の確認等、複数チェック体制で事故防止に努めている。また、服薬時に口から薬を落としてしまう事故もあり、飲み込むまでそばを離れず、確認するよう徹底している。						
ヒヤリハット	54件	ヒヤリの積み重ねが事故防止につながることを意識し、徹底したい。					

小規模多機能ともの家吾も紅

1) 総括

①認知症ケアのプロを目指す

具体的には、パーソンセンタードケア、ユマニチュードに基づく介護実践。症状別での対応の仕方を研究・実行する。事例発表会への積極的参加。職員研修の推進。職員は常に「にこやかな表情で傾聴する・穏やかで丁寧に話す・目線を合わせる・優しく触れる」などユマニチュードに基づく接し方を心掛けて関係性づくりに努めた。ユマニチュード哲学に基づいて立つことを大事にしているため、要介護5の方も全員車いすを使わず歩いている。事例研究で発表する機会を作り、全員で課題に取り組めた。法人全体に定められた研修のほか、事業所での課題を毎月設け、各人に取り組んでもらっている。新人職員には研修マニュアルに基づく指導を行った。

②文化活動の充実

食事、運動、環境を三大「文化活動」ととらえ、それぞれ担当を置いて日々の楽しみ作りを行った。職員会で翌月に何をするか班ごとに計画し、月末には反省を出してもらった。食事班は行事食やおやつを工夫し、時には芋炊き等户外で食事をした。梅干し、梅ジュース、漬物、レモンのはちみつ漬けなど常備菜も利用者で作っている。また利用者さんの誕生日には食事班が中心となって寿司やケーキを提供している。運動班はレクや行事を担当し、盛夏と厳冬を除いては毎月お出かけしている。岩堰の花見に始まり、菜の花(見奈良)、牡丹(浄瑠璃寺)、バラ(萬翠荘・吉海バラ園)、花菖蒲・アジサイ(白猪の滝)、向日葵(ひよこたん池)、彼岸花(久谷)、秋桜(見奈良)など春夏秋冬花を訪ね、伊予十三佛詣での色々な寺巡りをした。内子ブドウ狩り、久万紅葉狩りなど好評のため恒例になった行事もある。梅雨時には室内レクの充実に努めている。環境班は不用品の処分・清掃のほか季節ごとに衣類や寝具を整備したりカーテンを洗ったりできた。

③いのちの終わりの全体を見つめ、他職種、家族が協力して適切なケアを行う。

本人理解に努め、本人主体のケアを考えた。定期的なバザー、介護相談室、認知症講座などを開き、また事業所交流を開催して地域連携に努めた。包括支援センターから相談を受け赴いた例が二件ある。二件とも利用につながった。居宅療養管理指導として近所の薬局ともやり取りしており、助言を仰ぐこともある。認知症専門医とは懇意であり、適宜電話やメールでやり取りし相談に乗ってもらっている。自分たちで判断できず主治医とすぐに連絡が取れない場合、近所に住む井谷医師に診てもらえるよう日頃から交流している。井谷医師には家族と職員に向けて「終末期について」の講義をもらった。家族は協力的で、中には毎日訪れ家電の修繕をしてくれる方がいる。今年度、家族より苦情が一件あった。苦情処理の手順に従って解決したが、何度も話し合いを重ね、感情的に納得していただくには時間がかかった。人間である以上価値観の違いは否めないが、一方的に伝えたり従ったりするのではなく、日頃より関係性を密にして家族・利用者・職員同士との「共働」を意識する必要があると思う。

④その他

顕在化しにくい、利用を始めてから吾も紅で過ごしているうちに元気になっている事象がある。現在吾も紅には要介護5の利用者が3名いる。若年性アルツハイマー型認知症の2名の女性は、ともに利用開始直後には極度の便秘に悩まされていた。寝返りが打てず自力で立ち上がれず体は傾き歩くとひざの痛みを訴えていた。「転倒の危険」を感じ座らせっぱなしが多かったのだと思われる。「廃用性症候群」の危険の方が大きいと判断、逆にできるだけ座らず自由に歩くように職員にアドバイスした。また、薬を見直して主治医に相談、不必要な睡眠導入剤や精神安定剤は全て止めた。代わりに栄養と水分を摂って、天気の良い日は外に出て歩くようにした。結果、現在では二人とも自然排便であり足の痛みは消えた。動かさないことで筋肉が硬直し、ますます筋緊張が亢進していたものと思われる。またもう1名の女性は急に歩けなくなり食べられなくなってあわやターミナルと思われたが、毎日好きなものを食べて、体を動かすことをあきらめず努力することで死の淵から回復し、元通りの元気な姿を取り戻すことができた。今後も油断は禁物だが、一瞬一瞬を大事にして過ごしたい。ほかに、独居で身寄りのない認知症の女性が緊急保護先として成年後見制度を使いながら利用開始した。当初は被害妄想と帰宅願望が強く、外に出ると「助けてください！高齢者を虐待しています」と叫んだり、ドライブしても「人をだまして」と後ろから運転者をたたいたりしていたが、帰りたいといえはすぐ自宅に送るようにしたところ5か月経った今ではすっかり落ち着き、「ここが私の家だった」と言われている。この方については、保護されることによってマズローの欲求5段階説の「生理的欲求」は満たされたものの、「帰属と愛情の欲求」が満たされなかったため、自分の居場所(存在意義)を探して混乱していたのだと思われる。介護者は、その方が今どういう状況に居るのか「心の風景」を見ることにより、適切な介護を行う必要があると思う。現在、吾も紅ではドライブに行きたい人は送迎についていき、食べたいものはお腹いっぱい食べ、行きたい所があれば出かけるという「自由な生活」を満喫している。自由の中にしか尊厳はない、という信念に基づいているためである。毎日外を歩いていたKさんがグループホームに移ってしまい寂しさを感じる。

次年度はコロナ禍によって面会・外出が制限され、楽しみの奪われる日々になりそうである。この中で吾も紅らしさが保っていけるのか、不安の中で介護のあり方を模索している。

2) 具体活動報告

防災訓練

6月21日、1月31日にいずれも消防署員立会いの下、消防訓練を行った。中でも1月の訓練では利用者さんが張り切って参加、2名が水消火器を使用して「初めての経験だった」と言われていた。利用者の中には高齢者夫婦のみの世帯が3組あり、実際に火事が起こった時の訓練にもなったかと思う。後で知ったご家族がぜひ参加したかったといわれたため、来年度からは通信を出して全員に案内しようと思う。

外出、行事への取組			
4月	花見、買い物、浄円寺花祭、浄瑠璃寺牡丹見物、紙芝居、ご家族によるピアノ演奏会	11月	夕食、久万高原紅葉見物
6月	障害者施設「花楽里」バザー、友の会バザー、買い物	12月	バザー、鍋パーティー、子どもピアノコンサート
7月	バーベキュー、石手寺参拝、白猪の瀧、紫陽花見物		チェロコンサート、餅つき、買い物
8月	湯山地区盆踊り、ピアノコンサート、買い物	1月	初詣、松山空港・金のしゃちほこ見物
9月	ちらし寿司作り、スイカ割、花火、そうめん流し	2月	三津ドライブ、高浜港・シーボーンアート展
9月	内子ブドウ狩り、北条ドライブ、月見、花火、敬老会	3月	椿神社から津吉ドライブ、お菓子作り、節分豆まき
10月	湯山中運動会、伊予十三仏詣、ピアノコンサート		梅津寺、夕食、萬翠荘喫茶、七折梅見、龍隠寺見奈良菜の花見物
10月	久谷彼岸花見物、栗拾い、獅子舞見物、地方祭見物	その他	見奈良菜の花見物、松山総合公園
10月	ミニ運動会、小百合保育園運動会、見奈良コスモス、片手薬師参拝、芋炊き、湯山地区運動会	その他	毎週クラブ活動として、カラオケ、体操、ゲーム、ピアノコンサート等を法人合同でおこなった。

2019年度に行った新規取り組み内容

・各班に分かれた活動

今年度は、職員を三つの班(食事・運動・環境)に分け、毎月各班で話し合い、活動に取り組んでもらった。これはスウェーデンの「三つの財団」が掲げていた理念にのっとり、食事・運動・環境を「三大文化活動」と捉えてその充実を目指したためである。具体的な進め方としては、職員会議で各班が来月の予定をまとめ、日々の中で実行し、反省を月末に提出するという方法をとった。これにより、利用者が快適で楽しみのある暮らしを送れるとともに、職員に企画・運営能力がついたと思われる。

・ケアプランの立案

実地指導の結果、ケアマネジャーの立てるケアプランのほかに小規模多機能事業所としてのプランが必要だといわれたこともあり、各担当者が中心にプランを考えた。職員の中には介護支援専門員の資格を持っている者から、今年入職したばかりの者もあり、一律に立案することは難しいため、まずは「利用者理解」を目的とし、一対一で話す機会を作り、利用者の声にじっくりと耳を傾けることにした。その間はほかの職員が業務にあたることにし、とにかくゆっくり話を聞く時間を作った。その中で新しい発見もあり、プランに生かすことができた。

・家族懇談会の開催

家族の方に事業所を知ってもらい、家族同士の交流する機会を持ちたいと思い、クリスマス会に案内を出し、6組の家族に参加していただいた。近所の井谷先生夫婦もご招待し、利用者で作った寿司をふるまてにぎやかな会を開くことができた。皆さんから自己紹介いただき、食事の間は「吾も紅の一年」というスライドを流して歓談した。ボランティアの方や介護保険課、包括支援センターの職員にも参加してもらって事業所の取り組みを披露することができた。

・亡くなった人への手紙、アルバムづくり

今年も亡くなった2名の方のご家族に職員一人ひとりが思い出を綴った手紙とアルバムをプレゼントした。いずれのご家族ともサービス利用が終わってからもやりとりが続いており、故人を偲ぶご縁を大事にしていきたい。また、1年の間撮りためた写真を利用者ごとのアルバムにして年度末にプレゼントしているが、利用を中止された方にもお渡ししている。これからも、色々な方とともに過ごした日々を忘れずにいたいと思う。

・環境整備への取り組み

今年度は主に環境班を中心に環境整備に取り組んだ。不用品の処分・倉庫の片づけや衛生対策に心掛け、一人も感染症や食中毒を出すことなく過ごせた。季節ごとの寝具や衣服調節も環境班中心に各担当者が気を付けて行った。カーテンやシーツの洗濯・大掃除は環境班が日にちや分担を決め、各職員が協力できた。男性職員はエアコンフィルターやトイレの棚を付けてくれ、資源ごみ回収も率先して行ってくれた。玄関先の階段が見えにくく、転倒する人がいたため一部にテープを貼りわかりやすくした。また必要な物品や花を持ってきてくれる職員もおおり、こうしたほうがいいのかという提言も多い。利用者さんの暮らしのために職員が自ら気持ちよく動くのが吾も紅の良さだと思う。

3) 介護事故

年間発生件数	21件	松山市への報告	0件					
内容別 件数								
骨折	転倒	転落	失踪	誤薬	皮膚剥離	ずり落ち	異食	
0	12	0	2	4	1	1	1	
主な事故の改善措置	<p>転倒が一番多く、介護度別にみると要介護1の方5件、要介護2の方1件、要介護4の方2件、要介護5の方4件となっており、必ずしも重度の方に限られていないことがわかる。いずれも自分で動けるが故に起こる事故であり、「移動の自由」とともに転倒リスクがついて回ることは否めない。介護者が十分に注意していても不意にバランスを崩して倒れることはある。幸いにしてどのケースも無傷または打ち身程度の怪我だった。が、転倒した8名のうち2名は鬼籍に入り、1名はグループホームに移り、3名はその後状態が悪化し入院または区分変更したことを考えるとバランスを崩すことは何らかの変調をきたす兆候であったといえるだろう。転倒そのものよりも、転倒を起こすほどの状態だということに気を付ける必要がある。</p>							
ヒヤリハット	22件	ヒヤリの積み重ねが事故防止につながることを意識し、徹底したい。						

V その他

1) クラブ活動の実施

毎週木曜日の14時から15時半までアンジュール2階にて、次のとおり実施した。

1週目	カラオケ	2週目	ゲーム
3週目	青い鳥健康教室(認知症予防)	最終週	ピアノコンサート

- ・青い鳥健康教室の実施…スリーAの提唱者である増田未知子氏の研修に出かけ、指導者資格を取った吾も紅の職員を中心に、クラブ活動として行った。
- ・2週目のゲームクラブは、小規模多機能ホームと小規模多機能ともの家吾も紅が、隔月で企画担当となり、様々なアクティビティを実施した。

2) ともの家後援会との連携

物心両面でともの家を支える、として発足したともの家後援会。2019年度もボランティア等でご支援いただいた。

3) ご協力いただいた方々(敬称略)

【寄付】

宇都宮理、大野博敏、横畑幸生、片山信雄、宮内みどり、勝谷充代

計 650,000円

株式会社真木(タオル)、松本勢子(野菜)、篠藤菊美(お菓子、手芸用品)、窪田淑子(もち米)、野本貞樹(野菜)、渡邊公三(野菜、果物)、小田原賢三(野菜等)、吉金理(焚付、野菜)、下東令子(テレビ)、宇都宮歩(座布団、食品)、山内さとみ(野菜等)

【ボランティア】

矢野隆三、足利篤代、宮内みどり、吉村健二、井谷昭、井谷カヨコ、藤田由美子、阪本史子、坊城絹子、千葉昇、千葉薫、越智愛(あいピアノ教室)、野尻千鶴、松下章子、越智節子、上月典子、黒田映李